

巻頭言 『世の光として来られた神の御子』

牧師 田辺 正隆

「わたしは、世の光です。わたしに従う者は、決してやみの中を歩むことがなく、いのちの光を持つのです。」(ヨハネ 8:12)

光は暗闇を照らします。停電が復旧した時の喜びを忘れることができません。光は心の暗闇を照らします。キリストはそのみことばで私たちの罪深い心の内を照らされます。神の御子イエス・キリストは私たちを「罪」とその結果である「滅び」から救うために、人となって罪深い世に来てくださいました。ですから、私たちは、まず、自分が神の御前に罪深いものであることを知らねばなりません。

光は暗闇を一掃します。部屋の暗さは、箒ではいても消えません。心の暗闇、罪はどんなに難行苦行しても消えません。部屋の闇を追い出す唯一の方法は、窓を開けて光を入れることです。心の暗闇は、私たちが光であるイエス・キリストを信じて心にお迎えする時に消え去ります。イエス・キリストが十字架にかかって私たちの罪の身代わりに死んでくださり、罪を贖って下さったからです。キリストを信じ、より頼む者の罪を主イエスは十字架に免じて赦し、忘れてくださいます。

光はいのちの光です。キリストは十字架にかかって死なれた後、三日目に甦って今も生きておられます。そして、信じる者に永遠のいのちを与えてくださいます。死んでも死なないいのちです。復活のいのちです。キリストを信じる者は死を恐れる必要はありません。天国に住まいが備えられているからです。また、地上に生かされている間、神のいのちに生き、勝利の生活が約束されています。神のいのちは、愛するいのち、赦すいのち、罪に打ち勝ついのちです。

光はすべてのものを暖めます。キリストを心にお迎えする時、聖い愛のぬくもりの中に生きることが出来ます。神に愛され、人を愛する愛のぬくもりです。

私たちの光として来られた神の御子イエス・キリストを心にお迎えして、主に従ってまいりましょう。

クリスマスの思い出 『私の罪のために?』

田辺 みや子

私は1935年生まれです。非常に信心深い父と、夫に何一つ文句も言わずに従った従順な母と四人の兄と一人の姉を持つ末っ子として生まれました。

私が六歳の時、第二次世界大戦が始まりました。尋常小学校から国民学校に切り替わった時でした。♪みんなで べんきょう うれしいな! 国民学校いちねんせい! みんなで たいそう一、二、三! 国民学校一年生! ♪今でも耳から離れない新鮮な思いで小学校の頃を思い出します。戦時中歌われた敵国アメリカや英国を野次るような歌も沢山覚えています。皇国民を意識させる沢山の歌とともに…。

小学校五年生の八月に終戦を迎え、世の中は一変いたしました。学校制度も変わり、「新制中学校」の一年生になり、今までは敵国語であった英語が何とも新鮮で、物真似上手な私は英語が得意科目になり、何とか英語をモノにしようと教会に通い始めました。父と姉の行っていた教会でなく、宣教師のいる教会に行き始めたのです。バイブルクラスだけでは物足らず、礼拝、伝道集会と宣教師が顔を見せる集会に熱心に通い始めました。どれほど多くの友人が教会に来たことでしょう。(これは余談ですが、この宣教師のお子さんに、私は「キリスト者の集い」で実に50年ぶりにお会いしたのです! 主の御手のわざです)。

バイブルクラスで用いられたテキストが聖書でしたから、当時の聖書が文語訳であったこともあって英語で読む聖書は平易な言葉で書かれているのでそのまま入ってきました。自分の今まで信じてきた神は？ と、いつの間にか考えるようになりました。

「真の神ではない神を神とすることは罪」だと、知りました。真の神は、この天地宇宙を創造し、私たち人間をも創造された方、今迄何となく自分の考えていた神とは全く違う。私にとっての真の神との出会いでした。ただ、それだけで私は、自分がクリスチャンになった心算でいました。罪についても救いについても何となく分かったつもりでいたのです。

教会の友人達は、皆学校の成績も良く、クリスチャンとしても良く集会に出て、聖書知識もあり、三人ばかり洗礼を受け、クリスチャンとしての歩みを始めていました。私は洗礼を勧められても、前に書きましたように、父や姉と違う教会でしたので、洗礼を受けるなら父の教会で受けるように言われていましたので、洗礼を受けないまま教会学校の奉仕をしておりました。（今では考えられないことですが・・・）

ですから、クリスマスが近づいてくると「子ども達にどんな賛美をさせようか、どんな劇をやらせたら・・・」などと考えて、少しもクリスマスの喜びや感謝など考えることなく過ごしていました。

「なぜクリスマスが喜べないのか」と教会の行き帰りに寒い北風の吹く前橋の町を自転車の上で繰り返すつづやいていました。「主よ、あなたがこの地に来てくださったのは、私の罪からの救いを与えてくださるためなのに、私には自分の罪が分かっていないように思えます。どうぞ、私の罪を教えてください！」と、叫び祈っていたのを思い出します。

私は28歳で牧師に嫁ぎました。この結婚生活がなかったら、私には、自分の罪も、救いも、信仰も与えられなかったでしょう。牧師の妻ですから、いろいろな相談事があったり、信徒の方々を慰めたり励ましたりすることがある中で、人々に語りながら自分に逆輸入することが殆どでした。

或るとき、私たちの教会の兄弟と隣町の教会の姉妹との縁談が持ち上がり、いざ婚約式を行うために姉妹をまっておりますと、お見えになるなり「私にはこの結婚はできません」と、固い決意を見せて断られるのです。相手の兄弟は真面目一方の方で、この事を聞いたら、どんな結果が待ち受けているかと気が気ではありませんでした。理由を聞くと「私のような者があの方と結婚したら、相手を汚してしまいます。」と、おっしゃるのです。

自分こそ相手を幸せにするのだという方々が多いのに、この言葉を聞いて、「あなたこそあの方に相応しい方です。あなたはクリスチャンでしょう。主が十字架の上で贖いをなし・・・」と、私の持っている知識を振り絞って説得しているうちに、主はまさに私の罪のために死んでくださったということが分かり、かつての私の祈りに応えていてくださる主を覚えることが出来、心から主の御降誕を祝えるようになったのでした。

振り返ってみると、私のクリスチャンとしての歩みは、子どもが母の胎から出て、人として成長するように、主の者として長い年月を経て成長し、今日に至ったように思います。

「私はすでに得たのでもなく、すでに完全にされているのでもありません。ただ捕らえようとして、追求しているのです。そして、それを得るようと、キリスト・イエスが私を捕らえてくださったのです。」（ピリピ 3:12）

♪ 救い主はわがため 与えませり命を。信仰も愛も薄きわれに何を捧げ得べきか。

ささぐるもの全ては 君が手より出でたり。捧げまつらん 委ねまつらん 今我が身を汝が手に♪
聖歌 312 番より

クリスマスおめでとうございます！

クリスマス 豆辞典

1. クリスマス (Christmas)

(1)「Xマス」という表記は、ギリシャ語のキリスト(Χ ρ ι σ τ ο ς)の頭文字Xに[más(礼拝)]をつけたものです。したがって、クリスマスは降誕された神の御子キリストを礼拝する日です。

(2)クリスマスの日ですが、四世紀の頃から東方教会では、1月6日を、西方教会では12月25日をその日としました。この12月25日は、ローマ時代の太陽神礼拝の祝日で、この異教の礼拝に対抗してキリスト教徒が義の太陽キリストを祝う日としたと考えられています。この日が今日までクリスマスと

して守られてきたのです。

2. クリスマスのシンボル

(1) クリスマスツリー

722年の12月24日。英国産まれの伝道者ウインフリッド(後にポニファチウスと改名し、「ドイツの使徒」と呼ばれた)がドイツのザクセンに福音を伝えて旅をしていた時のこと、暗い森の中で赤々と火を燃やし、村の人々がユータイド(冬至祭)の儀式をしているのに出会いました。大きな樅の木を取り巻き、この木に宿る雷と戦いの神トールに馬を捧げるのですが、その年は不作とはやり病に見舞われたので、トールの神の怒りを鎮めようと、酋長の一人息子をいけにえに捧げようとしていました。

怪しげな神官が少年を祭壇に引き立て、ひざまずかせて、その頭上に黒い槌を振り下ろそうとした瞬間、ウインフリッドの杖がハッシとくい止めました。怒り狂い、このよそ者に罰をくだしてくれと樅の木に向かって祈る神官を尻目に、ウインフリッドは斧を持ってこさせ、コーンコーンと樅の木を切り倒してしまいました。

「これはただの材木です。真の神イエス・キリストのためにここに教会を建てましょう。」と、ウインフリッドは聖書を取り出し、息を呑んで見守っている人々に福音を伝えました。そうしながら、ふと倒された大木の傍らを見ると、小さな青々としたモミの若木がありました。「このモミの木は生きている。これこそあなたがたの新しい信仰の証です。」と言いました。

村人たちの心は次第に動かされ、小さいモミの木に感動を覚えました。ウインフリッドを先頭に酋長の家にモミの木を運び、居間に美しく飾り、救い主の降誕の話を聞き、彼らにとって初めてのクリスマス祝ったのです。それがドイツ中に広まり、今や全世界のクリスマスシーズンを楽しく彩るものとなったのです。

(2) きよしこの夜

「きよしこの夜」は、1818年オーストリアの片田舎オーベルンドルフにある聖ニコラス教会の副司祭ヨーゼフ・モールが作詞しました。教会のオルガンが壊れて修理がクリスマスまでに間に合わない知り、それでも何とか賛美歌を演奏したいと方法を思い巡らしたあげく、自分で詞を書き、当時小学校の教師だったフランツ・クサヴァー・グルーバーに作曲を頼んだのです。

クリスマス・イヴに、生まれたての「きよしこの夜」はグルーバーの爪弾くギターに合わせ、テナーのヨーゼフ・モール、バスのグルーバー、その子どもたちの愛らしい聖歌隊によって、初めて演奏されました。

素朴で清らかなこの曲に、オルガンの修理に来たマウラツヒャーが感動し、チロル地方に伝え、チロルの手袋業者によってドイツに広められ、ライブツィヒの教会で歌われるに至って全世界の人々に親しまれるようになりました。聖ニコラス教会は19世紀の終わりに洪水で流されてしまいましたが、その跡地に可愛い「きよしこの夜」記念堂が建っています。

(3) 星

キリスト御自身が「輝く明けの明星」と呼ばれていること。三人の博士が巨大な星に導かれて幼子キリストに会いに来たこと。御降誕を最初に知らされた羊飼いたちが夜更けに寝ずの番をしていた情景など、クリスマスには星が散りばめられています。

(4) 贈り物

神が人類のために、独り子イエス・キリストを下さったことに感謝して、私たちも愛を分かち合うため、また三人の博士がキリストに黄金、乳香、没薬の心からの贈り物をしたことなどに由来しています。

(5) クリスマスの植物

- ① ポインセチヤ： 12月頃、枝先に放射状につく包葉が真っ赤に色づきます。この赤い色がキリストの血潮を思わせることから、クリスマスには欠かせないものになっています。
- ② ヒイラギ： クリスマスに使うのは西洋ヒイラギで、葉が一年中青々としています。欧米ではホーリーと呼ばれているところからクリスマスに使われるようになったといわれています。5月から6月、葉腋に香りの良い白い小さな花が付き、果実はクリスマスに近づくにつれ、鮮やかな紅色に熟します。
- ③ 常緑樹： モミの木を始め松など枯れることなくいつも青々としている木は、永遠の命の象徴となっています。
- ④ シクラメン： 地中海東部沿岸地方の原産。桜草科の多年草。根から群生する葉は柄が長く、ハート型をしていることから、クリスマスへの愛を象徴しています。花の少ない季節クリスマスを祝う部屋の賑わいに良く飾られます。

(6) サンタクロース

サンタクロースはサンタ・ニコラスが訛ってアメリカに広まったものです。三世紀の末、小アジアのパタラという港町の信仰の篤い金持ちの夫婦に待望の子として生まれた男の子はニコラス(神の申し子)と名づけられました。幼いときに両親が相次いで亡くなり孤児となりましたが、莫大な遺産を受け継ぎました。

彼は両親から聖書のお話を聞いて育ったため、自分の生活を神に献げようと神学校へ行き、伝道師となりました。若くして司祭、間もなく大司教となり、有名なニケヤ会議に出席、アリウス主義の異端に対して、アレキサンドロスやアタナシウスと一緒に正統主義キリスト教を弁護しました。

このようにニコラスは博学であっただけでなく、キリストの惜しみなく与え仕える愛を実践した人でもありました。親譲りの財産を貧しい人々に恵み、病人の薬代を払い、子ども達にはおもちゃや本を与え、惜しみなく施しました。

342年に天に召されましたが、そのエピソードは数多く残されています。サンタクロースの服はニコラスの司祭の服装。また、赤い色は人類の救いのためにキリストが流された血の色を象徴しています。

近況報告 (各務恵美子姉ーハンブルク)

フランクフルト教会の皆さま方もお元気でお過ごしでしょうか。私たち家族は、ハンブルクの教会にも少しずつ慣れてきました。こちらでは、クリスマス礼拝のときに行う劇の練習が9月頃から始まっていて、祐輝も他の子ども達と一緒に羊の役で出演する事になっています。

先日初めて祐輝も劇の練習に参加しましたが、キャーキャー楽しそうに走り回ってしまい、舞台の上でじっとしてられないので、当日はどうなることやらヒヤヒヤしています。

祐輝は今年25日に二歳の誕生日を迎えます。先週、二歳児検診に行ってきましたが、体重・身長ともに標準サイズにぴったりで、医師に「パーフェクト!」と、言われました。

寒さが厳しくなって来ましたが、どうぞお体に気をつけてください。またいつかお会いできる日を楽しみにしつつ。

修養会の証

前号で10月に行われた修養会の証を載せましたが、その後、書いてくださった方々がおられました。それらをここに掲載いたします。

1. 今井 朗兄 (シュツットガルト)

この度は田辺牧師ご夫妻からフランクフルト教会修養会へのご案内をいただき、家内と初めて修養会に導かれたことを心から感謝しております。

私たち夫婦は、2006年4月から転勤で神戸からシュツットガルトに駐在、52歳で初めて海外生活を経験いたしました。現在、家内と二人で暮らしています。この間に二名の孫が与えられて、OpaとOmaになりました。シュツットガルトでは、地元の International Baptist 教会(約30カ国の異なった国籍の方々が参加)で主日礼拝を守り、また月に一回のシュツットガルト日本語教会で主に在る兄弟姉妹との交わりに支えられて生活しております。

今回の学びで何時も流れているキリストの愛(キリストを見つめて、キリストにある生活、キリストに在って...)。キリストだけが信仰の中心であり、みことばがその土台であることを矢吹先生の非常に分かりやすく、且つ聖霊の導きに従って歩まれた信仰生活の体験から多く学ばせていただきました。

現在、我が家では月に二回、家庭集会(Small Group)を行っております。10名前後の方々が参加されていますが、その大部分の方が求道者であり、初めて聖書のお話を聞く若い留学生の方々です。その方々に聖書を正しく、その真理を分かりやすく伝えさせていただくというのが私たちの切なる祈りでありました。そのためにも私たち夫婦がしっかりとみことばに立って、聞き、行う者と変えられる必要がありました。

このような修養会を通して、主に在って愛する牧師先生方や兄弟姉妹との分かち合いに触れることが出来、互いに励まし合い、祈り合うことができました。まさに、イエスさまとの美しい関係を体験する機会を与えられ、ありがとうございました。

これからも欧州に在住されておられる方々と主に在る交わりを深め、互いに励まし合い、共にみことばに養われて成長して行きたく願っております。

「イエスよ、わたしたちは、一つになりました。互いに仕えることで、一つになりました。兄弟が一つに

なることは、何と楽しくうるわしいか、それは主が命の祝福を命じられたからです。」
今回の集会に参加されましたお一人一人をイエスさまの愛で心から愛します。

2. 原しのぶ姉（スイス日本語福音キリスト教会）

懐かしい田辺先生ご夫妻と再会し、「みことばの光」編集長の矢吹博先生ご夫妻に初めてお会いしました。みことばの光に照らされながら静まる時間をもっていらっしゃる先生方のお姿は、ただ存在(いて)くださるだけで、みことばの実践を肌で感じる事が出来ました。それは「人を通して神の栄光が現されていく」と聖書に書いてあるとおりです。

何層にも折り重なって複雑、かつ私にとって難解のみことばの奥義が先生方の実践を通して、私の内に徐々に明らかにされていっています。それはシンプルですが、「ただ主を仰ぎ見て歩む」ということです。それから、みことばを通して主に似せられて行くキリスト者の人格に触れると、人は主に倣い(習い)、また主からの励ましを受けることも出来るのだと思いました。また、田辺先生のお話を通して、主からの大きな慰めが与えられたため、しばらく胸が痛むほどでした。

私がみことばに集中できるようにと、みや子先生が奏楽の奉仕を引き受けて下さっていたこと、脇山さんご夫妻や兄弟姉妹との親しい交わり、秋晴れと緑の自然の中で、用意された三度のお食事と伸びやかで笑顔の美しい若いシスターの作られた美味しいケーキを堪能できたこと、そんな沢山の恵みの故に私の霊肉の疲れが癒されたこと、そして何よりも、ただ、みことばに集中出来た豊かで満たされた「完璧な安息日」を過ごせたことは私の大きな喜びでした。ありがとうございました。

みことばの瞑想

「一年を振り返って」

田辺 みや子

あつという間の一年でした。何もかも無我夢中の一年でした。唯ひたすらに主を追い求めての一年であったように思います。自分が教育・伝道役員として、今までの生涯で経験したこともない一年でした。感謝の少ない、つぶやきの多い一年でもあった事を思い、自分の不信仰を嘆く一年でもありました。

であったが故に、ただ主に必死でしがみついた一年で、数え切れない主の御業としか言いようのない恵みが数えられる一年でもありました。

礼拝出席者がどんどん減る中で、旅人が本当に多い一年でもあり、旅人に姿を隠した主の慰め・励ましを覚えた一年でもありました。今朝開かれたイザヤ書に

わたしに聞け。ヤコブの家と、イスラエルの家のすべての残りの者よ。

胎内にいる時からになわれており、生まれる前から運ばれた者よ。

あなたが年をとっても、わたしは同じようにする。

あなたがたがしがらになっても、わたしは背負う。

わたしはそうして来たのだ。なお、わたしは運ぼう。わたしは背負って、救い出そう。(46:3, 4)

とあり、主のみ声が私に優しく響いて来るような思いでした。

♪ 救い主イエスと共に行く身は ♪ (新聖歌340)

1. 救い主イエスと ともに行く身は 乏しきことなく恐れもあらず
イエスは 安きもて心足らわせ ものごと全てを良きになし給う

2. 坂道に強きみ手を差し伸べ 試みの時は 恵みを賜う
弱きわが魂の 渴く折しも 目の前の岩は 裂けて水湧く

3. いかに満ち満てる 恵みなるかや 約束しませる家に 帰らば
わが魂は 歌わん 力の限り「君に守られて 今日まで来ぬ」と

新しい年も、この主に望みをおいて、「弱さのうちに働かれる主」を仰ぎ見つつ歩んで行きたいと願わされています。

<編集後記>

編集責任のある私(田辺みや子)は、今回も殆どその責任が果たせず、牧師である夫に全てをしてもらいました。お詫び申し上げます。新年度からは、更に充実したものが出来るように、皆さんのお知恵をいただきたいと、願っています。

発行：フランクフルト日本語福音キリスト教会

集会場所： c/o Missionsgemeinde Frankfurt Biblische Nächstenliebe e.V.

Hungener Straße 6c , 60389 Frankfurt am Main

連絡先： 田辺正隆、みや子牧師夫妻

住所： De-la-Fosse-Weg 36, 64289 Darmstadt

Tel: 06151-712327 Fax: 06151-669969 Mobile: 0173-6736333

E-mail: mtanabe@gmx.de

<テレフォン伝道 Tel: 06441-2081626>

教会ホームページ: <http://www.jegf.de/>

教会振込口座： Frankfurter Sparkasse

Konto Nr. 200099477

BLZ: 500 502 01

Japanische Evangelische Gemeinde Ffm e.V

編集： 田辺 みや子

E-mail : mtanabe@gmx.de

